

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1771500277		
法人名	株式会社 ウェル		
事業所名	グループホーム宝達の郷 (もみじユニット)		
所在地	石川県羽咋郡宝達志水町今浜148番1		
自己評価作成日	令和2年12月24日	評価結果市町村受理日	令和3年3月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人バリアフリー総合研究所		
所在地	石川県白山市成町712番地3		
訪問調査日	令和3年3月3日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・「自由に・ゆったり・ありのままに」生活を送っていただきます
 ・一人ひとりの「その人らしさ」を尊重します
 ・「第二の我が家(セカンドベスト)」を目指します
 という理念を活かし、ご縁のあった利用者さんに幸せな時間を提供できるように日々努力しています。
 食事前には全員で体操や唄を歌い、お花見や夏祭り、バーベキュー等色々な年間行事を通して、楽しいのびのびと生活していただいております。
 また、もみじユニットがひとつのチームであることや報連相を大切にして日々の業務を行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・理念「自由に・ゆったり・ありのままの生活、その人らしさの尊重、ホームが第二の我が家(要約)」にホームが目指すべき目標を示し、利用者個々の症状や能力に応じて「その人らしさ」が護れる支援となるよう取り組んでいる。
 ・介護計画は「その人らしさ」重視の立案に向け、利用者にとって必要な支援を、本人・家族はもとより、職員の誰もが具体的に何をすればよいかを端的に示す表現にして、ケアのばらつき解消にもつながるよう取り組んでいる。
 ・日頃は食事作り専門の職員がおり、土間打ち中庭での屋外食事企画、便秘対策のカルピスゼリー等の寒天食材、正月には全職員が手作り一品お節を持ちよるなど、利用者の暮らしに美味しく楽しくをに取り組んでいる。
 ・コロナ禍のため、皆で繰り出す外食を兼ねた花見や紅葉狩り行事は断念しているものの、県下・地元の感染状況を見計らいながら予防対策を講じての毎朝の散歩や、誕生日に個別に食べたいものや行きたい所に行く支援は継続し、家族・知人とも窓越しや携帯電話を使っての面会など、利用者の望む暮らしに向け取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～59で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
60	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> <ol style="list-style-type: none"> ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない 	67	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> <ol style="list-style-type: none"> ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
61	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,42)	<input type="radio"/> <ol style="list-style-type: none"> 毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない 	68	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> <ol style="list-style-type: none"> ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない
62	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:42)	<input type="radio"/> <ol style="list-style-type: none"> ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない 	69	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> <ol style="list-style-type: none"> 大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
63	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:40,41)	<input type="radio"/> <ol style="list-style-type: none"> ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない 	70	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> <ol style="list-style-type: none"> ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
64	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:53)	<input type="radio"/> <ol style="list-style-type: none"> ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない 	71	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> <ol style="list-style-type: none"> ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
65	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> <ol style="list-style-type: none"> ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない 	72	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> <ol style="list-style-type: none"> ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどできていない
66	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> <ol style="list-style-type: none"> ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない 			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念をユニット会議開始前に全員で唱和するとともに、日々事あるごとに理念を念頭におきながら利用者様と関わっている	理念「自由に・ゆったり・ありのままの生活、その人らしさの尊重、ここが第二の我が家(要約)」に、ホームが目指すべき目標を示し、食事時間をはじめ日々の過ごし方も思うようになるよう症状や能力に沿った支援をし、「その人らしさ」となるよう会議で唱和や日々関わりの中で都度省みて、理念の具現化に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年度はコロナの影響で地域の方々との交流は元より外出を控える状況も長く続いた。そのような中で地域のすこやかクラブの方や女性の会の方々にはシクラメンや写真をいただき感謝している。	今年度はコロナ禍のため、毎年していた初詣や左義長、敬老会、文化祭等への参加、祭りでは獅子舞に来てもらい、近隣保育園から運動会やクリスマス会にも招かれ、ホーム横のグラウンドでのよさこいソーラン大会観覧も全て中止の状況下、町の福祉活動団体から贈答品を頂く交流があった。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今年度は外部の方々との交流する機会を持つことができず残念に思っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナの影響により面会禁止にしているため書面での事業報告を運営推進会議としている。	会議は隔月開催で、家族代表、市社協の会長でもある区長、行政・包括職員の構成で、近隣同法人事業所と合同で開催しているが、今年は感染予防のため入居状況やホーム活動内容、感染対策等の報告書を送付する書面開催にかえて、ホームの実情をお伝えしている。	会議議事録(あるいは書面報告書)を、参加者や家族に配布されるとともに玄関にも常置され、ホーム運営の理解や家族・地域関係者の参加増員につなげられる事を期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の開催や感染症対策の助成等、いろいろ相談にのってもらっている	行政担当課には運営推進会議にてホームの実情を伝え、毎月の入退去報告や介護認定更新、申請代行等、今年度はコロナ対策の情報等を頂き、ホーム適正運営につなげている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	自由に入出入り環境を整えている。ユニット会議等で日々のケアにおける対応が適切であるかどうか話し合っている。	日中の玄関施錠はなく、玄関を出て外気をひと息吸って戻る方もおれば、中庭に職員と出ているうちに1人でも気ままに出歩く方もいる。身体拘束等適正化委員会や研修・勉強会、ユニット会議等を通じ、ややもすれば業務を優先した対応になっていないかを省みて、日々のケアが利用者ファーストとなるよう取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修が行われておらず参加できていないが、ユニット会議等で話し合う機会を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	前例がないこともあり、個々で理解出来ている職員もいるが、全ての職員の理解は十分ではない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	これまでの暮らしの中で行ってきた事、大事にしていた事等を聞き取りスタッフ全員が周知し日々のケアに活かしている。離れているご家族にも様子が分かるよう毎月の写真の送付は継続しておりご家族からも好評の声が寄せられている。	家族から入居前にされていた事をお聴きしたり、利用者に代わり家族に思いをお伝えしたり、個々の事情に応じた支援に取り組んでおり、毎月、代表者と担当職員がスナップ写真と近況コメントを送付している。頻繁に来て頂ける地元家族も多く、面会はマスク着用・検温・手指消毒のもと、2mの間隔を空けて玄関先にてお話し頂いている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のユニット会議において随時意見を聞く以外にも日頃より風遠しを良くし意見交換が行えるよう配慮している	毎月のユニット会議は、代表者、管理者、元行政職員、休日職員も含めた全職員が参加し、全利用者の現状把握、ヒヤリハット検討、行事企画、勉強会等を検討・協議している。代表者がいることで即決性もあり、職員からの設備の充足や処遇改善、サービス向上提案等がホーム運営に反映される機会となっている。また日頃も「ひやりハット」「安全レポート」にて利用者とサービスの現状把握につなげている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	常に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修がなく参加していないが、実践を交えてその都度トレーニングしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	オンライン等で常に新しい情報を取り入れられるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に面談することでご本人のご要望を聞きだし不安を取り除くよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学时よりご家族のご要望を把握し不安を取り除くよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人の望む生活を見極め他事業所と連携を図る。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様の能力に応じて役割を持っていたいしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月担当者から状態を記載したお便りを送付している。受診介助もご家族にお願いしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地元のご家族にはソーシャルディスタンスを保ちマスク着用にて数分の対面、県外からの来訪者にはガラス越しで電話を使用して面会を行ってもらっている。また行きつけの美容院に出かけられるよう他のお客様がいない時間をお願いしている。	家族・親戚・知人の来訪が多く、行きつけ美容院や自宅の庭の柿や柚子を採りに行ったり、家族と葬式や墓参りに出向くなど、入居前からの人や場所との関係、楽しみにしている習慣、家族としての務めなど、それぞれの思いや事情に応じて支援しているが、今はコロナ禍のため、制限や自粛をせざるを得なく、県外からの来訪者には玄関ホールや中庭から携帯で電話をして頂いての窓越し面会を余儀なくされている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立しがちな利用者には職員が間に入り橋渡しをしている。関係性が悪くなった利用者が出てきた場合はさりげなく食事の席替え等をして対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院中であれば退所以降もお見舞いに行ったり、亡くなられた時には葬儀に参列している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	したい事やできる事を日頃の関わりの中で感じ取り本人本位のケアに努めている。また個々の利用者の思いや意向の情報を得たら日誌等に記載し全スタッフで共有するよう努めている。	全利用者に担当職員を配しているが、担当職員のみならず全員で全利用者に関わる環境となっており、また利用者も日頃から気軽に自分のしたい事や嫌な事を口にする方が多く、介護日誌記録やユニット会議で利用者個々の思いの把握や情報共有を図り、把握困難な方には日頃の関わりの中で都度気持ちを察して、本人本位のケアとなるよう検討している。	より利用者の思いを把握できるよう、利用者一人ひとりの言動や症状を、一時的な事象だけに捉われずに、その前後をはじめ全体的に職員間で検討できる仕組みや工夫に取り組みされる事を期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族、また居宅のケアマネジャー、サービス事業所等から情報収集し、出来る限り経過の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ひとりひとりの生活リズムを知り、ご本人のしたい事やできる事を本人のペースで行ってもらっている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当職員がその時の「その人らしさ」を誰が見ても分かりやすいように図案化し、月1回のユニット会議において職員全員で話し合い統一したケアができるよう取り組んでいる。	計画は、「その人らしさ」重視の立案に向け、担当職員またはケアマネが毎月作成しているモニタリング結果と本人・家族の意向をもとに、健康維持や本人がしたい事などその方にとって必要な支援を具現化し、表記も本人・家族はもとより職員誰もが具体的に何をすればよいかを端的に示す表現にして、計画作成担当者とケアマネが担当ユニット分を作成。更新期間も一律にせず半年から1年の間に実施している。	現在着手されている「その人らしさ」を重視し、かつ職員のみならず本人も家族も誰もが何を目的に何をするのかをわかりやすく端的に表現する、ホーム独自の介護計画の進化に向け、引き続き取り組んで行かれる事を期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録や三則表に記載した上で口頭でも申し送りを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	訪問理美容や受診同行等、柔軟な対応をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今年度はボランティアの方にも来ていただけず我慢の年だった。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望のかかりつけ医の受診の際にスムーズに診察が行えるよう最近の体調やバイタルの報告を行ったり、看護職員のアドバイスを聞きながら状態に応じた医療機関の受診を依頼し適切な医療を受けられるよう支援している。	受診は、ホーム提携病院や医院のほか、入居前からの利用者個別の医療機関からの訪問診療もあり、通院や内科以外の外来受診については基本家族付き添いだが、精神的症状や家族の都合など必要に応じて職員が連れ添い近況を直接伝える場合もある。看護師職員もおり、専用連絡ノートを活用や全利用者の健康管理にて、適切な医療支援につなげている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師との専用のノートを作成し質問や依頼を記載して指示を仰いでいる。また緊急時にはメールや電話でやり取りしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時した際は情報提供書で情報交換に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化傾向がみられたら、状態に適したベッドや福祉用具の依頼を行い、生活が少しでも安楽になるよう支援している。またかかりつけ医とも相談し状態の把握と、受け入れ先の病院や施設の紹介も合わせて行っている。	毎月のモニタリングや食事摂取量の減少など日常の関わりの中で重度化傾向が見られれば、家族に診察をお願いし、診断結果に応じて当ホームでできる支援や提携病院、特養施設を紹介している。過去、居室を玄関横の事務室に変更して最後を見送った事例もある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	外部の勉強会には参加していないが、看護師にその都度相談しながら実践力を身につけるよう努めている。		
35	(13)	○緊急時等の対応 けが、転倒、窒息、意識不明、行方不明等の緊急事態に対応する体制が整備されている	症例別の対応マニュアルの整備と「ヒヤリ・ハット報告書」をユニット会議で検討することで再発防止に努めている。また押水と合同で看護職員による緊急時の対応の研修を行った。	窒息や転倒予防など症例別の対応マニュアルを備え、日頃は「ひやりハット」、「安全レポート」の提出を義務化させ、ユニット会議にて改めて事故予防や再発防止を検討する機会を設けている。今年度は消防署員による救急救命講習は中止となったが、近隣同法人事業所と合同で、看護師職員を講師に正しい脈の取り方や体温測定の研究をするなど、より実践に即した緊急時対応が身につくよう取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(14)	○バックアップ機関の充実 協力医療機関や介護老人福祉施設等のバックアップ機関との間で、支援体制が確保されている	提携病院や入居前のかかりつけ病院にも訪問診療に来ていただいている。他に気になることがあれば些細な事でも相談し対応している。	提携病院と医院のほか、利用者個別の入居前からのかかりつけ病院にも訪問診療に来て頂いており、特養施設とも今年度はコロナ禍のためできていないが、当該施設開催の研修・勉強会等に参加し交流を持っている。	
37	(15)	○夜間及び深夜における勤務体制 夜間及び深夜における勤務体制が、緊急時に対応したものとなっている	夜勤者両ユニット1名ずつ計2名の夜間体制。緊急時には提携病院に連絡や緊急通報とともに、家族、管理者、代表者に連絡する手順で、搬送に伴った職員を代表者か近郊居住職員が迎えに行く体制である。	夜勤者両ユニット1名ずつ計2名の夜間体制。申し送り時に日中の利用者の様子を引き継ぎ、緊急時は24時間対応の提携病院に連絡や救急通報とともに、家族、管理者、元行政の非常勤職員、代表者に連絡する手順で、管理者がホームに残り、搬送に伴った職員を代表者か近郊居住職員が迎えに行く体制である。	
38	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	行政広報のハザードマップ、災害マニュアル、緊急連絡網を整備している。	行政広報のハザードマップ、災害マニュアル、緊急連絡網を備え、通年、ホーム独自で年2回防災業者の協力で、日中・夜間・火元を毎回変え、また天候が良ければ利用者も戸外退避し、通報操作確認や消火訓練を実施しているが、今年は感染防止対策のため中止を余儀なくされている。	コロナ禍であっても、感染防止を図りつつ、できる範囲で災害時における利用者、職員の安全確保に向けての検討や研修・訓練を実施されることが望まれる。
39	(17)	○災害対策 災害時の利用者の安全確保のための体制が整備されている	ライフラインや関係機関等の連絡先リストとともに、パン等の非常食、保存水等の備蓄品の3日分相当を(消費期限を含む)リスト化管理し、介護用品、ガスコンロ、サランラップ、マスク、懐中電灯の防災品も整備している。	ライフラインや関係機関等の連絡先リストとともに、パン等の非常食、保存水等の備蓄品は職員を含めた3日分相当を消費期限を含むリスト化管理をし、介護用品、ガスコンロ、サランラップ、マスク、懐中電灯等の防災品や日常必需品も整備している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
40	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	担当職員の情報を基にユニット会議で対応を検討し症状の理解と個性を尊重したケアに取り組んでいる。	利用者も職員も地元の方が多く、当地の慣習や生活習慣に倣った言葉かけと接し方で対応している。周期的に症状に起伏がある方には、周期に応じてユニット会議で対応を検討したり、日頃も担当職員情報を基に「その人らしさ」を護れるよう努めているなど、症状の理解と個性を尊重したケアに向け取り組んでいる。	
41		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望、要望を伝える方にはその都度対応している。また伝えられない方には行動やしぐさで本人の思いをくみ取るように努めている。		
42		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	希望に沿ったケアができるように日々話し合いその都度対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	持っている洋服を把握しコーディネート等のアドバイスをしている。		
44	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立・調理専門の職員が主になりホーム菜園の野菜が提供できるよう工夫している。また食で季節が感じられるよう梅干しや干し柿、かぶら寿司等を職員とともに手作りしている。普通食が摂れなくなった方には個々の状態に応じた食事形態で提供している。	献立・調理は専門職員が美味しさファーストで担い、梅干しや干し柿、かぶら寿司等の郷土料理は利用者も調理に参加している。食材は地元スーパーで買っているが、ホーム菜園の収穫物や家族からのお裾分けで自家製や旬物も食卓に並ぶ。今年度も感染対策を講じて中庭でバーベキューや流しそうめんをし、正月には全職員が手作りお節料理を一品ずつ持ちより、誕生日ケーキは夏はパフェにしている。	
45		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量の記録や栄養バランスを配慮しながら献立を立てており、残したがちになった際には原因を探り出来る限り食事で栄養が摂れるよう努力している。		
46		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアが必要な方には毎食後介助している		
47	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックをすることでトイレで排泄する習慣や下剤服薬等の体調管理、またユニット会議等で適切なパンツやパットの検討にも役立てている。	排泄は、少しの介助でほぼ自立している方が多いが、全利用者の排泄管理をし、モニタリングやユニット会議等で適切なパット・紙パンツ類を検討して提供している。正常な習慣作りに向け、野菜、乳酸菌等の摂取の他にもカルピスゼリーや牛乳寒天の工夫、体操に加えマッサージもするなど、服薬にはあまり頼らない本来の能力を引き出す支援に取り組んでいる。	
48		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の状態に応じて食事内容や水分摂取量に注意しているが、それでも困難な時は主治医に内服の調整を依頼しスムーズな排便ができるようにしている。		
49	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴嫌いの方にも週2回以上入浴できるようタイミングや声かけの仕方を工夫している。また湯加減や一番風呂等の要望にも応じている。男性スタッフが苦手な方には女性スタッフが対応できるよう配慮している。	入浴は、日曜を除く午前中に、週2回以上を目安にご利用頂いており、タオル類や洗髪剤、石鹸等は全利用者分を個別に配備し、入浴を嫌がる方には勧める職員や日を変えたり、運動した後や家族の来訪を理由に気持ちよく入って頂いている。要望者にはこだわりの入浴剤を、湯加減や一番風呂等にも応えて、入浴を楽しめるよう工夫している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	睡眠パターンをつかみ日常生活に支障が出ないようゆっくり休んでいただいている。		
51		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局と協力して服薬支援し、症状の変化を確認している。		
52		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	畑仕事や食器洗い、食事の下準備や掃除など本人の得意とする作業を行ってもらっている。また編み物や貼り絵など要望に応じて提供している。		
53	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で外出もままならぬ日が続いているが自宅の庭の柿やゆずをとりに行ったり、個別でお花見やもみじ狩り、季節の花が咲いている頃に出かけている。また中庭にはいつでも出入りできており、時にはスタッフと共に散歩や日向ぼっこを楽しんでいる。	感染予防で、毎年実施していた福祉ワゴン車をチャーターして皆で外食を兼ねた花見や紅葉狩り等へ繰り出す企画や利用者で行く食材・日用品の買い出しは断念しているが、それでも人と会わない時間帯を見計らい、個別にマスクを着けて散歩をしたり自然景観に出向いている。また、誕生月に食べたいものや行きたい所へ個別に出向く支援も継続している。	
54		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望や力に応じてお金を自由に所持し使用している。		
55		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自由にしている。		
56	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温度・湿度管理、空気清浄機や窓開け換気も行い感染対策している。季節を感じてもらえるよう雛人形や五月人形、クリスマスツリー等の飾り付けを利用者の方々とともにやっている。また利用者様自ら庭に咲く花を摘み玄関やホールを華やかに飾ってくれている。	リビングから宝達山が一望でき、採光良く、除湿・加湿・温度管理に1時間毎の窓開け換気、また消毒清掃も徹底して感染対策を図っている。毎日、小上がりの仏壇に経をあげる利用者の後ろで手を合わす利用者もおり、ハイレベルな花紙作品は100歳超の利用者が製作したもの。玄関広間やユニット出入口には本格的な生花による四季の飾り付けがなされており、玄関軒下には毎年ツバメが巣作りに来ている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
57		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自席以外にソファ席やホールの共有スペースを自由に思い思いに過ごされている。		
58	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	全室洋室でベッドと夏冬の羽毛布団を準備している。テレビや整理ダンス、使い慣れた椅子等を持ってきてもらう事で居心地よい空間作りができるようにしている。またホームで撮った家族写真や行事写真、自分で作られた作品等を飾り暖かみのある居室作りができるよう配慮している。	居室は全室洋室でベッドが備え付けで、夏冬の羽毛布団はシーズン毎に交換している。危険物以外持ち込みは自由で、小型テレビや整理ダンス、ハンガーラック等々、馴染みの物や使い慣れた物を持ち込まれ、入居してから作った作品を並べている方もいる。運動機能に応じて家族と相談しながら適宜に配置換えもし、食事中など全員がリビングにいる際には、適宜に職員が窓開け換気をしている。	
59		○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室前には表札を作り、またトイレや浴室の案内板は大きく分かりやすいように表示している。		